

～未来をつくる子どもたちの豊かな心をはぐくむために～

道徳のとびら

4コママンガで みんなと話そう!

～「どう思う?」「こう思うよ」が心を育てるチャンスになる～

だれかと話して、考えが広がったり、「なるほど!」と気付いたりしたことはありませんか。おうちの方や友達との「話し合い」の中で、自分の心の中がよく分かったり、相手の気持ちに気付いたりすることもあると思います。次の4コママンガをみんなで読みながら、「どのように考えるか」を話し合ってみましょう。話し合うことで、いっしょに心を育てていきましょう!

ぼくの心の中には、どんな思いがあふれてきたのかな?



がんばらやんばい

「ふくしま道徳教育資料集(小学校版)」より



マンガは、「全部」「1コマずつ」ダウンロードして読むことができます。



福島県版「道徳教育アーカイブ」
道徳のとびら



福島県教育委員会

「モラル・エッセイ」コンテスト最優秀作品

県教育委員会では、毎年「モラル・エッセイ」コンテストを行っています。今回紹介するのは、令和7年度の部門別最優秀作品です。次は、みなさんの心温まる体験談やすてきなエピソードを、ぜひお聞かせください。

*中学生の部 「忘れてはいけない心」

いわき市立田人中学校 2年 田村 優典

先日、家族みんなで外出に出かけた際、食べがかりの僕は、「食べ放題の焼肉がいいな」と、言って希望した。焼肉店に入ると、早速、タッチパネルを使い、好きなものをどんどん注文し始めた。最近は、タッチパネルでの注文の店も多く、慣れたものだった。その後は、ロボットが注文した品を次から次へと席まで届けてくれた。品物を取ると、ロボットはすぐに戻っていく。その速さには驚いた。ロボットが行き交う中、僕は、ある光景をふと目にした。それは、床の片隅に落ちていたおしぼりの袋らしきゴミを、店員さんがパッとしゃがみ、拾って自分のポケットに入れたところだ。きっと目についたゴミを、お客さんには分からないように素早い行動をしたのだから。ロボットでは、決してできない行動だったのではないだろうか。それから気付いたのは、店員さんが、時折品物を運んできてくれた時には、必ず、「ごゆっくりどうぞ」と声をかけてくれる姿だった。お店はとても混んでいて、忙しく大変な状況であっても、かけてくれる言葉には、優しさを感じた。タッチパネルで、肉を焼く網の交換も注文できるが、まだいいかなあと考えていたところ、網の状態を見ていた店員さんから、交換しましょうかと声をかけてくれ、素晴らしい気配りだと思った。これから、世の中はどんどんロボット、AIが発展していくだろう。それが便利で当たり前の世の中になっても、人間にしかできない、思いやりの心は、決して忘れてたくないと思った。その後、帰りの車で、このささいな出来事を家族と話し、お腹いっぱいになっただけでなく、心もほっこり優しい気持ちに満たされた外食となった。

*高校生の部 「憧れと努力の先に」

福島県立いわき総合高等学校(好間校舎) 3年 根本 美憂

「とても素敵でした。」フラダンスを習い始めてから、初めて言われたこの言葉。私はこの瞬間、喜びと驚き、達成感で胸がいっぱいになった。私は、フラガールに憧れを抱き、二年前にフラダンスを習い始めた。初めてフラガールのショーを見た時、私は涙が出た。キラキラ輝いていて、表情が素敵で美しく、こんなにも心を揺さぶられたのは初めてだった。感激するとは、こういうことだと思った。私もいつか、誰かをこんな気持ちにさせる存在になりたいと強く思った。しかし、そう簡単にはいかなかった。フラダンスの先生からよく、「表情から何も伝わってこない。」「歌詞の意味を理解せず、ただ踊るだけではだめ。」と言われた。フラダンスのハンドモーションには、ひとつひとつ意味がある。振り付けを覚えるだけで精一杯な私は、意味を完璧に理解した上で踊り、表現するということが心底難しかった。なかなか上手くできず、私は自分に落胆した。フラガールのように踊ることは、自分にはできないのかもしれないと思った。けれど、毎日ひたむきに練習した。最近、地域のイベントでフラダンスを披露する機会があった。私は感情が観客に伝わるよう、思いを込めて踊った。この日は、いつもより上手にできた気がした。終演後、一人の女性に声をかけられた。「とても素敵でした。口ずさみながら楽しそうに踊っていて、曲の意味が伝わってきた。目で追ってしまった。」この女性は、私がずっと誰かに言って欲しかった言葉を全てくれた。やっと、努力が報われたような気がした。自分の踊りを見て感動してくれる人がいる。頑張ってきて良かった、そしてもっと頑張ろう、と思えた瞬間だった。周りで支えてくれる人への感謝の気持ちを忘れず、これからも沢山の人の心に感動を与えられるよう、思いが伝わるフラを踊り続けたいと思う。

*一般の部 「風のなかの親切」

いわき市在住 若松 吉伸

旅先では、言葉よりも親切が身を助けてくれる。初めての台北。飛行場を出て、スーツケースを引きながら、目的地へ向かうべく路線バスのバス停を探していた。スマートフォンの地図は通りの喧騒の中で頼りなく、私はたまたま近くを歩いていた若い母親に声をかけた。乳母車には赤ちゃんが乗っていた。彼女は私の片言の問いかけに耳を傾け、「一緒に行きましょう」と言ってくれた。「ご迷惑ではありませんか」と遠慮すると、「気になさらないでください」と、微笑んで応じてくれた。彼女は乳母車を押したまま一緒に歩いてくれた。大通りをしばらく歩くと、目的のバス停が見えてきた。「ここ」と指さし、軽く会釈して去っていく姿を、私はしばらく見送った。旅の不安が、ふっとほぐれるようだった。数ヶ月後、日本。春。満開の桜の下で、カメラのシャッター音が聞こえた。そこには、台湾から来たという四人組がいて、そのうちの一人がランナーだった。私もランナーであり、自然と会話がはずんだ。互いの走った大会の話で笑い合い、私はLINEを交換した。その日の午後、彼らからメッセージが届いたのだ。「東北本線が火災で止まっています。新白河駅までバスで行きたい。どうしたら?」私は思った。あの駅は無人だったはず。ならば、バスなど来ないのではないか。「今からそこへ行く」と返信し、私は車を走らせた。予想どおり、駅では四人が困惑した様子で立ち尽くしていた。私は彼らを社用車に乗せ、新白河駅へ送った。別れ際、「この車をバックに記念撮影をしたい」と言われた。むろん断る理由などなかった。笑顔でシャッターを切る彼らを見て、心が温まった。親切は、国も言葉も超えてゆく。あの日、台湾で受けた親切と、日本で返した小さな案内と。どちらも、風のようにさりげなく、でも確かに、心に残り続けている。



「モラル・エッセイ」コンテスト
優秀作品集は、義務教育課ホーム
ページから御覧いただけます。



義務教育課「福島県版
「道徳教育アーカイブ」
のページ

〈編集・発行〉
福島県教育委員会 令和8年1月

何に気づき、何を大切にしようと思ったのだろうか？



塩むすび
「ふくしま道徳教育資料集(中学校版)」より



東日本大震災の時、避難所で生活していた私は、ある日食事係を担当することになりました。温かい塩むすびを握って人々に出す私は、「ありがとう」という感謝の言葉や、周りの大人の頑張りに触れます。
この経験をとおして、私の心には、どんな気づきや気持ちが生まれたのでしょうか。

チェーンメール
「ふくしま道徳教育資料集(高等学校版)」より



停電が復旧した直後、ノブはテレビで原発事故の映像を見て、強い不安に襲われます。そんな中、親友から届いた「雨に濡れないで」というメールを、ノブは夢中で部活の友達などに転送します。その直後、「デマが流れている」という会話を聞き、ノブは立ちすくみます。ノブは何かまちがいをおかしてしまったのでしょうか。



僕は、まちがっていたのだろうか？



心が動き体が動く！ 生き方を見つめる道徳教育

～道徳教育推進校の取組から～



「つながる」「協力」「深める・感謝」

伊達市立伊達小学校

今年度、伊達小学校では「つながる」「協力」「深める・感謝」を学期ごとのテーマとして教育活動を進めています。1学期、児童は「ふれあいタイム」を通して異学年の児童や保護者と触れ合い、つながりを広げてきました。今後はみんなで協力したり、これまで関わった人やものに感謝したりする機会を設定します。このような教育活動を通して、児童同士、児童と教師、児童と保護者等、様々な人との関わりを深めていきます。



日常にちりばめる道徳教育の推進

郡山市立大槻中学校

例えば、「困っている友達に「どうしたの?」と声をかける」「廊下では合わせしたときに「どうぞ」「ありがとう」が自然に出る」「大きな荷物を運んでいる人を見かけたら「手伝います」と走り寄っていく」など、日常の一コマ一コマに、大切にしたい思いやりが形に表れています。このような「いいね」の瞬間に気づき、次の「いいね」が生まれる日常をつくり、他者との対話を通じた学びを大切にしているチーム大槻です。



温かい言葉や行いがあふれる「ぼかぼかの木」

矢吹町立三神小学校

三神小学校では、あいさつや返事の励行や温かい言葉(ぼかぼか言葉)があふれる人間関係の育成に取り組んでいます。校長が常日頃から子どもたちに伝えている「元気・やる気・根気・勇気・本気」の「5つの気」を「5つの木」に例え「ぼかぼかの木」とし、「友達からのぼかぼか言葉で嬉しかったこと」や「友達のよい行いの感想」等を伝え合い、掲示することで、全校で共有できるようにしています。中には、互いのよさを伝え合う児童もあり、相手のよさだけでなく、自分のよさにも気付くことができる場となっています。



心をつなぐハイタッチ ～生徒会立案によるハイタッチあいさつ運動

喜多市立塩川中学校

塩川中学校では、「さわやか塩中生」をモットーに朝のあいさつ運動を週に3回行い、あいさつを大切にしています。
今年度から、生徒会が立案し、ハイタッチあいさつ運動を行いました。ハイタッチをしながらあいさつをすると、自然と笑顔が生まれます。朝から明るいあいさつと笑顔があふれて、一日が始まります。笑顔であいさつすることで、友達との仲が深まったり、先輩後輩との新しいつながりが生まれたりしています。



「祈り」と「おもひ」をつなぐ相馬総合高等学校

福島県立相馬総合高等学校

追悼・祈念の心を受け継いできた相馬東高校と新地高校が統合し、相馬総合高校として新たな歩みを始めました。防災と復興の学びを踏まえ、未来のまちづくりに主体的に関わる人材の育成を目指しています。
正面玄関には「おもひの木」を模した掲示物があり、生徒が震災や防災、相双地域への思いを葉の形のカードに記入し貼り付けることで、震災の記憶を風化させることなく、大切な「祈り」と「おもひ」を未来へつないでいきます。